

JALの日東整つばし  
不当解雇の責任取れ!

# 航空連ニュース

航空労組連絡会  
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル  
Tel 03-3742-3251  
Fax 03-5737-7819  
No.416(26-65) 2012年3月14日

## 日東航空整備2名が不当解雇撤回を求め東京地裁へ提訴

JALによって会社ごとつぶされ雇用を奪われた日東航空整備の2名が、不当解雇撤回、損害賠償などを求め3月14日に東京地裁へ提訴を行いました。これまで日東整争議団は、JALなどに対し、解雇撤回とJALエンジニアリング（JALEC）社での雇用確保を求めて取り組みを行ってきました。今後は、裁判闘争を含めて全面的な運動を展開していきます。提訴に当たって原告・対策会議・弁護団は声明を発表し争議勝利を表明しました。以下声明を紹介いたします。

### 日本航空による日東航空整備の事業終了に対し、解雇撤回を求めて闘う

#### 【声明】

日東航空整備は、2011年1月21日をもって事業終了とし、同年3月31日で従業員144名全員の雇用を奪った。これに対し、泉聖二と佐藤二郎の2名が解雇撤回を求めて、本日3月14日に東京地裁に提訴した。

日東航空整備は、1980年に日本航空（当時は東亜国内航空）と日本飛行機により設立された会社で、日本航空機の重整備（車でいう車検のようなもの）を30年にわたり担い、事業収入の95%以上を日本航空から占めていた。こうした中、日本航空は自社機の整備を労働条件の低いJALエンジニアリング（JALEC）へと移し、日本航空の整備士もほとんど出向させ、さらに日東航空整備が担っていた業務をJALECへと移し日東航空整備の従業員全員を解雇へと追い込んだ。

本来であれば、日東航空整備の事業をほとんどJALECへ移したのだから、日東航空整備の従業員も全員JALECに移すのが当然である。

日東航空整備労働組合は、航空労組連絡会に加盟し、航空の安全を守り、労働者の労働条件向上を目指して運動を進めてきたが、日本航空は役員選挙に介入して航空連脱退を進めた。

この背景には、日本航空のコスト優先、安全軽視の施策と共に、航空労組連絡会に結集する労働組合を敵視する違法な姿勢がある。

我々は、この裁判と共に大きな運動を築き、以下のものを求めて闘う。

- (1) 雇用を奪われた泉・佐藤両名の解雇撤回をさせる。
- (2) 日航の利益第一主義、労働者のために頑張る労働組合を敵視する政策を改めさせ、安全・安心の政策に切り替えさせる。
- (3) 子会社の労働者を使い捨てにする大企業の横暴を許さない。

我々は、1日も早い両名の解雇を撤回させるため、この争議勝利のために全力で闘うことを表明する。

2012年3月14日

日東航空整備争議団

航空労組連絡会・日東航空整備不当解雇撤回対策会議

日東航空整備不当解雇撤回裁判弁護団

# 日本航空の 子会社つぶしは 許せない！！

原告 泉 聖二  
私の決意



# JALの翼を支え30年 解雇撤回と 雇用を求めます

原告 佐藤 二郎  
私の決意

2011年1月21日、日本航空（JAL）の整備専門子会社・日東航空整備（株）は突然に事業終了を発表しました。これは JAL が仕事を打ち切ったのが原因です。日東航空整備労働組合は組合員の意見集約や会社に対し、何の抗議もせず組合解散を提案し、僅か1票差で組合解散は決議されました。

日東航空整備（株）の経営者は JAL からの出向者です。JAL が経営不振のときには、私たちの賃金や一時金をカットし協力させました。そして労働組合を変質させ、さらに日東航空整備会社をつぶし全従業員の雇用を奪いました。

このように労働者の職場や権利を奪い、労働者を使い捨てにする JAL 経営の横暴は絶対に許せません。私たちは航空の産別団体・航空連のスカイネットワークに加入し、さらに日東航空整備争議団を立ち上げ、解雇を撤回させ、JAL の親会社責任で私たちの雇用を確保するよう、運動を広げて闘ってきました。しかし JAL 経営は、私たちとの話し合いにも応じません。日東航空争議団は、運動を司法の場に広げて闘う決意し、今日ここに提訴しました。

私たちは、昨年7月に争議団を結成し、8月には東京争議団に入り航空だけではなく幅広く支援を元に日本航空に対して「解雇撤回と雇用の確保を求めて」日航本社前や羽田空港などで運動をしてきました。そして、これまで多くの団体（627 団体）や個人（12,000 筆）の方々にご協力を頂いた署名を持って日航本社に要請しましたが、署名用紙を受け取るだけで何らの対応もありません。

30年間に亘り日本航空の為に航空機の整備を担い安全運航に貢献してきました。また、経営破綻後の再建としてボーナスなし、賃金カットなどにも協力してきました。その結果が会社清算です。会社ごと潰して全員をクビにした日本航空を許すことが出来ません。私は、雇用を奪われたことと半年後の定年退職日を迎えられなかったことが口惜しくてなりません。この口惜しさは、日東航空整備（株）に関わった多くの人々が思っております。その為にも「日本航空に解雇撤回とグループ会社での雇用を求める」闘いには、必ず勝つ決意しております。

これまで以上のご支援をお願いします。